

ライフプランを描いてみる

① 部屋を借りるために必要なお金

初めて一人暮らしをする場合は、部屋を借りるためにどのようなお金がかかり、全部でいくらくらい必要か、そして今の貯金で足りるのかといったことが気になるものです。

部屋を借りるときには、地域や物件によって異なりますが、一般的には敷金・礼金として各1ヵ月分、前払い家賃として1ヵ月分、仲介手数料として1ヵ月分、合計で家賃の4ヵ月分強のお金を目安に用意すると良いでしょう。例えば、東京都内のワンルームマンションを家賃7.5万円で借りる場合、その他に必要な火災保険料なども加え、次のような金額になります。

〈例：東京都内、家賃7.5万円/月〉

		(単位：円)	
敷金	1ヵ月分	部屋を借りる際に預けるお金。退去時に、契約書に定められた補修費用を差し引かれて返ってきます。	75,000
礼金	1ヵ月分	部屋を借りる際に大家さんに支払う謝礼。退去時には戻りません。	75,000
前払い家賃	1ヵ月分	家賃支払い方法が「前家賃」となっている契約の場合は、翌月の家賃を契約時に支払います。	75,000
仲介手数料	1ヵ月分	部屋を借りる契約を結ぶ際、不動産会社に支払います。	82,500
火災保険料		加入義務付けの場合が多く、主に火災・水漏れを起こしたときの賠償責任や家財一式の補償、盗難時の補償などが含まれます。通常は2年に一度の更新です。	20,000
合計			327,500

※契約の期限(一般的に2年)が来た後も、同じ部屋に住み続ける場合には「更新手数料」が必要になります(不要な物件もあります)。※地域や物件によって、敷金・礼金・仲介手数料は異なります。

② 引っ越しをするために必要なお金

引っ越しにかかるお金は、その方法によって大きく異なります。例えば、家族や友人に協力してもらって引っ越しを行ったときは、レンタカー代と謝礼程度で済みます。ただし、不慣れたレンタカーでの交通事故のリスクなどがあります。

また、引っ越し専門業者に依頼する方法もあります。荷物の量や距離、時期にもよりますが、費用は主に2万円～10万円程度です。なお、単身者専用の引っ越し業者を利用すると、引っ越し費用を抑えることもできます。

③ 生活するために必要な月々のお金

毎月かかる生活費には、衣・食・住にかかる費用だけでなく、趣味にかかる費用や交際費、病院に行った際の医療費などもあります。主な項目は、以下のとおりです。

住居費	大家さんに支払う家賃、自宅の場合は家に入れるお金
水道・光熱費	電気・ガス・水道代(季節によって変動します)
食費	自炊・外食も含めた食事全般にかかる費用
通信費	携帯電話代・インターネット通信料など
書籍代	新聞代や雑誌・書籍・DVD・CD代など
被服・美容代	洋服や靴、美容院や化粧品などに使う費用
交通費	外出の際にかかる電車やバス代、タクシー代など
交際費	友人との飲食に使う費用、カラオケ代など
雑費	生活の中で購入する雑貨などに使う費用
その他	医療費など

④ 結婚する際に必要となる費用

日本では晩婚化が年々進んでおり、平均初婚年齢は男性が31.1歳、女性が29.4歳(「令和2年版少子化社会対策白書」内閣府)となっています。ただ、この数字を見ても、社会人10年目頃までには結婚する人が多いといえるでしょう。

結婚する際に必要なお金は、主に結婚式、新婚旅行などにかかる費用、新生活準備(新居の家賃、引っ越し、家具・家電購入費など)にかかる費用になります。具体的にどのようなことにお金がかかり、全体でどのくらい必要かをチェックしてみましょう。

⑤ 結納・婚約～新婚旅行までにかかった費用の総額

		(単位：万円)				
		北海道	首都圏	東海	関西	九州
結納・婚約～新婚旅行までにかかった費用	総額(推計値)	297.3	493.8	470.7	472.7	482.5

(出典)「セクシー結婚トレンド調査2020」調べ

⑥ 新生活準備のためにかかった費用

新生活準備のためにかかった費用総額は、平均で52.1万円。50万円未満が59%で最も高く、次いで50万円～100万円未満が27%、100万円以上が14%となっています。

●新生活準備のためにかかった費用総額 平均52.1万円

項目別平均額※1	インテリア・家具の購入総額	28.4万円
	家電製品の購入総額	33.4万円

●賃貸費用 敷金/礼金※2 15.3万円

●引っ越し費用※3 9.6万円

(出典)「新婚生活実態調査2018(リクルートプライダグル総研調べ)」

※1：「新生活準備のためにかかった費用総額」の算出時に用いた各項目の平均金額を掲載しています。これは各項目に費用が発生した人の平均金額であり、各項目の平均金額の合計は、「新生活準備のためにかかった費用総額」とは一致しません。

※2：「敷金/礼金」は、社宅を除く賃貸住宅居住者をベースにしています。

※3：「引っ越し費用」は、引っ越し業者を利用した人をベースにしています。



ワンポイント講座

結婚後の生活費として毎月かかるお金の項目は、基本的には親から独立して生活する際と同じです。ただし、結婚して2人になれば、当然支出も一人暮らしに比べて増えますので、よりしっかりと家計管理が求められます。